

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	ヒューマンライフケア大倉湯 2F	評価実施年月日	平成20年5月15日
評価実施構成員氏名	松前 人美      大澤則子      藤瀬 瞳      野島 婦美子      齊藤 まち子 齊藤 誠      倉知 諒      磯島 和美      田中 亜有子      三品 ゆかり		
記録者氏名	宮本 美保子	記録年月日	平成20年6月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

□ は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	○	<p>今後もこの理念の下に、ご入居者様の生活を支える取り組みを行っていききたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	○	<p>これからも管理者や職員間で理念の共有に努め、理念の実践に向けた取り組みを継続していく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>来訪者だけでなく、地域の人々にも当事業所の理念を理解して頂けるよう取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	○	<p>事業所内にも気軽に立ち寄って頂けるよう、立ち寄りやすい雰囲気づくりに努め、交流を深めていきたい。散歩などの外出の際にも同様に行っていききたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	○	<p>地域の人々との交流を深めていくためにも、今後は町内会での行事などに積極的に参加していききたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	<p>地域活動への参加を通し、地域の住民と関わりを深めていくと共に、その交流の中から地域に暮らす高齢者などの役に立てることを話し合い、取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>日々のケアや運営に、自己評価や外部評価での評価結果を活かしていけるよう取り組んでいるが、全てのことを具体的に改善出来るに至っていない。</p>	○	自己評価・外部評価での結果を十分に活かし、改善すべきところを確実に改善できるよう、計画的に取り組んでいく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議をあえてグループホーム食堂で行う事で、ご入居者様の日常生活をご紹介している。また、外部評価の実施や評価結果を報告しているが、前年度は運営推進会議の開催を1回しか出来ていない。</p>	○	今後も運営推進会議にて外部評価の実施や評価を報告していく。また、運営推進会議を定期的に行っていき、評価の改善状況などを報告していく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村との連携を図るための取り組みが出来ていない。</p>	○	市町村との連携を図るために積極的に取り組み、サービスの質を向上させていく。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>権利擁護について学ぶ機会を職場内研修等で作っているも、実際に活用出来るような支援が出来ていない。</p>	○	必要としている人に適切な制度の活用を支援できるように、今後も成年後見制度などに対する知識を深めていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者虐待防止法についての職場内研修を行い、身体拘束や虐待がないよう留意している。また、日常のケアのなかで、虐待に相当するような事が見過ごされていないか職員間で話し合い、意見交換するようにしている。</p>	○	虐待のないケアの継続のため、今後も研修会などで虐待について学び、日常的に話し合い、考えていく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居するに当たった契約時には、契約書の内容を十分に説明し、ご入居者様やご家族様に理解・納得をして頂いている。</p>	○	ご入居者様やご家族様が、理解・納得し入居当初から安心して暮らして頂けるよう、今後も十分な説明や話し合いを行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご入居者様自身が要望や意思を自由に表現出来るような雰囲気作りをすると共に、ご家族様に何でも話せる環境が作られるよう、面会時には思い思いの場所で過ごして頂いている。ご家族様にどの様な話をされていたのか、お伺いする事でケアや運営に反映させていくよう努めている。	○	ご入居者様それぞれが、要望や不満を気兼ねなく表せるような雰囲気づくりを継続していく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	各ご家族様に対し、毎月簡単なお手紙でご入居者様の様子を伝えていくが充分なものではない。また、体調不良等の変化がある場合や、遠方に住むご家族様にはお電話で伝えたり、携帯電話やパソコンのメールでご報告している。	○	必要に応じた随時の報告を継続するとともに、ご家族様に宛てる月1回のお手紙の内容を充実させたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居契約時やその他の際にも、事業所内苦情相談窓口や各市町村の苦情相談機関を説明し、ご意見や苦情等何でも話して頂ける関係を築いていきたい旨を伝えていく。また、ご家族様が来所された際には、感じたことやご意見等が無いからお尋ねし、話しやすい雰囲気作りを努めている。ご意見などを頂戴した際には、職員間で共有し、運営に反映させている。	○	ご家族様が感じたことや意見を遠慮無く話せる雰囲気づくりを継続し、今まで以上に関係を深めていけるよう努めると共に、頂いたご意見などを運営に反映させていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、日常的に職員の意見や提案を聴く機会を作るよう努めているが、充分では無い。職員より意見や提案があった際には、職員間で話し合い反映させられるよう努めている。また、管理者が決定出来ない事に関しては、運営者(準ずる代理者)に伝え、反映させられるよう努めている。	○	より多くの意見などを聴けるよう、職員と話す時間をこれまでより多く設けていく。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	可能な限り職員を多めに配置することで、突然の出来事や要望に沿えるような体制が作られている。また、ご入居者様やご家族様の状況や要望に応じ、休日等にも柔軟に対応できるよう努めている。	○	今後も可能な限り職員を確保し、柔軟な対応に努めていきたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間での職員の異動は、運営上必要に応じ行なっているが、必要最低限に抑えている。また、各ユニットの職員が2ユニット全てのご入居者様に関わる機会を日常的に作り、異動や離職によるダメージを防ぐ配慮を行なっている。	○	馴染みの関係を出る限り継続していけるよう、事業所内の異動を最小限に抑えていくと共に、職員に長く働いてもらえる環境作りに努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	年間を通して社内研修が開催されている。また、昨年度より職種別研修が開催されており、各職種に応じた細かい指導が受けられている。	○ 管理者や職員は出来る限り社内研修に参加し、参加できなかった職員に対して事業所内で研修していく取り組みを継続していく。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	各区の管理者連絡会議を通じ、管理者同士交流はあるが、他職員が他事業所と交流する機会は作れていない。	○ 管理者同士のお付き合いだけでなく、職員同士が交流できるような機会を設けられるように、管理者会議などを通して他事業所の管理者とも話し合っていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	社内にて、「スタッフ相談室」が設置されている他、1年に1度スタッフアンケートの回収を行い、職員のストレスの把握や軽減に取り組んでいる。	○ ストレス軽減のため社内の制度を活用していくと共に、事業所内でも職員のストレスを把握し軽減していけるよう取り組んでいく。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	運営者(準ずる代理者)は、管理者や各職員の勤務状況や努力を把握するよう努めている。	○ 管理者や職員の日々の取り組みを把握し理解してもらうためにも、運営者との信頼関係をより深めていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居相談から入居までの期間に、出来るだけご本人様との面談の機会を作り、ご本人様からも直接お話が伺えるよう努めている。	○ より多くの情報を得るためにも、ご本人様からお話を聴く機会を積極的に作っていく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居相談者には、入居するに至らない場合であっても、見学等をお勧めし、悩みや求めていることをお伺いする機会を作っている。	○ ご家族様が抱えている悩みや不安は多く、それを他者に相談することがなかなか出来ないケースが多いです。ご家族様のお話を聴くことで、ご家族様の不安やストレスの軽減に繋がっていると思います。今後も、ご家族様等のお話を聴く機会を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談を受けた際には、ご本人様とご家族様の現状把握に努め、状況に応じて現実即したサービス利用が出来るよう対応している。	○	グループホーム入居に向けた支援だけでなく、その人が本当に必要としているサービスを受けられる支援が行えるように、他サービスの事ももっと学んでいきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居相談から実際に入居日までの期間に、ご家族様や介護支援専門員等と相談しながら、ご本人様がグループホームへ来られる機会を作ったり、他ご入居者様や職員と一緒に食事する機会を設け、入居後の安心へと繋げる工夫をしている。	○	入居に至るまでの間に、全ての相談者に同様の働きかけを行い、出来る限り入居前の支援に取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理全般や植物の世話等を共に行い、助け合う事でご入居者様それぞれの能力や特技を生かして頂く機会を作っている。それにより、多くのことをご入居者様から学んでいる。	○	共に生活し、喜怒哀楽を共有することで、介護する側・される側の関係ではない支え合う関係を保ちつつ、ご入居者様から沢山の事を学んでいきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご入居者様の状況を詳細に報告・説明し、ご家族様と一緒に考え、一緒にケアを行なえるような関係が築けているが、全ての方に出来ていない。	○	これからも、より多くのご家族様にケアに参加して頂けるよう働きかけ、関係を深めていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	これまでのご本人様とご家族様の関係を正しく理解する為、情報収集するとともに、よりよい関係を築けるよう支援に努めている。また、職員とご家族様が一緒にご入居者様の生活を支えていけるよう働きかける等している。	○	今後も同様の取り組みを行い、ご入居者様とご家族様が良い関係を築き、保っていけるよう支援していく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご入居者様の友人や、馴染みの人の面会を断ることなく受け入れ、さらにご家族様にも面会者があった事を伝えることで関係が途切れないう支援している。しかし、馴染みの場所や、望む場所へ行けるような支援は充分に出来ていない。	○	車が確保できない等の問題はありますが、ご入居者様が馴染みの場所や行きたい場所へ行けるような支援を出来る限り行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	各ご入居者様の個性や能力を理解した上で、ご入居者様同士が共に作業する機会などを作り、関わり合いや支え合いを実感出来るよう努めている。また、各ご入居者様の個性や関係を把握することで、トラブルなどにならないよう配慮することが出来ている。	○	ご入居者様同士の関わり合いを支援しながら、各ご入居者様が孤立してしまうことが無いよう努めていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後であっても、ご家族様が介護サービス等について相談に来て下さっている事例があり、出来る限りの支援をさせて頂いている。また、ご家族様が遊びに来て下さっており、良い関係を継続出来ている。	○	契約終了後も良い関係を保っていけるよう、また、介護などの相談に対応できるよう努めていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前よりご本人様と面談する機会を作り、ご本人様の希望や意向を把握するよう努めている。また、ご本人様が意思表示が困難な場合には、ご家族様と相談し本人本位に検討している。	○	ご本人様が望む暮らしや以降を把握し支援していけるように、ご本人様はもちろんのこと、ご家族様とも話し合う機会を設けていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居相談時より、相談者やご本人様からこれまでの経過や、生活環境、望む生活を細かく聴き、把握に努めている。	○	一人ひとりが安心して快適に暮らしていけるように、これまでの暮らしの継続を支援していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	ご本人様やご家族様等より詳細にお話を伺い、現状を総合的に把握するよう努めている。	○	日々の過ごし方や、心身の状態などを総合的に把握し、その人らしい暮らしの継続を支援していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員が中心となり、計画作成担当者だけではなく、ご本人様やご家族様、職員全員が介護計画作成に参加出来る体制が整ってきた。	○	現在の取り組みが継続できるよう、管理者や介護支援専門員を中心にご家族様や必要な関係者に働きかけていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の申し送り等で職員が活発に意見を出し合う事で、各ご入居者様の現状や変化を職員全員が把握し、介護支援専門員が中心となり、現在の介護計画に即していない場合には新たに介護計画を作成している。	○	管理者や介護支援専門員を中心に、現在の取り組みを継続していき、ご入居者様の状態に即した介護計画を作成していきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活の様子等を個別に記録しているが、十分に情報を共有出来ていない場合もあり、申し送り等で互いが声を掛け合い、確認し合い情報共有に努め、日常のケアや介護計画に活かせるよう努めている。	○	生活の様子の記録を充実させていくと共に、現在の取り組みを継続し、情報の共有に努めていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	日常的にご本人様やご家族様の要望に応えるように努めている。また、ご家族様の状況や要望に応じ、通院等の付き添いを行っている。	○	今後もご本人様やご家族様の要望に応え、柔軟な支援を行っていくとともに、多種多様な要望に応じられるよう備えていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	訪問歯科クリニックより、歯科衛生士がボランティア兼研修として関わっているが、他の地域資源との協力が十分に出来ていない。	○	管理者が中心となり、地域の各機関に積極的に協力を求め、協働できるよう努めていく。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご入居者様が通所介護を利用する際等の話し合いは行なっているが、ご入居者様からの要望はなく、希望が発生した場合に備えている。	○	ご入居者様が他のサービスを利用したい旨の希望が発生した場合に備え、通所介護だけでなく、様々なサービス利用の支援に向けた話し合いをしていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	前年度の運営推進会議が1回しか開催出来ておらず、包括支援センターとの協働が出来ていない。また、それ以外での協働の機会が作れていない。	○	運営推進会議を定期的開催し、地域包括支援センターとの関わりを深め、会議だけではなく協働できる体制を整えていきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員を配置しており、各ご入居者様の状態を詳細に把握出来ている。看護師を中心に日常の健康管理や各医療機関との連携に努めている。	○	現在の体制を維持することに努め、各関係者が協力し、ご入居者様の健康な暮らしを支えていきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当グループホームは2件の医療機関の医師と往診を中心に連携しており、いずれの医師も認知症に詳しく、職員やご入居者様が相談出来る関係にあり、必要に応じて他医療機関を受診出来るよう支援して下さっている。	○	ご入居者様の健康状態だけでなく、日常のケアに関する相談ができる関係が気づけています。今後も現在の体制を維持すると共に、ご入居者様の状態を的確に医師に伝えていけるよう取り組んでいきたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員を確保しおり、事業所看護師や職員は往診医療機関の看護師とも相談しながら日常の健康管理を行っている。	○	事業所の看護師を中心に、往診医療機関の看護師とも連携をより深めていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院が必要な際には、ほとんどの場合が往診医が入院先を手配して下さっており、入院先の医療機関に対し、医師からは医療的情報、グループホームからは介護に関する情報を提供し、安心して治療を受けられるよう支援している。また、ご家族様や往診医も参加して頂き早期退院に向けた話し合いを行なっている。	○	ご入居者様が適切に安心して医療を受けられるように、今後も継続して取り組んでいきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時にはご本人様やご家族様に重度化した場合や終末期に、何処で、どの様に過ごしたいか尋ねており、その意向を職員間で共有し、往診医にも伝えている。また、状態の変化に応じ、往診医とご本人様やご家族様が話し合えるよう連絡調整している。	○	重度化した場合や終末期のあり方には、人それぞれの考え方や希望があります。入居時のこのこととお話することで、状態の変化や突然の病気の際に医師やご家族様と連携し、素早く対応できております。今後も継続して取り組んでいきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した場合や終末期のご入居者様が、グループホームでの生活の継続を希望された際には各往診医に相談し、事業所の「出来る事・出来ない事」を医師及び、ご本人様やご家族様に伝え、理解・納得して頂いた上で医療機関や看護師と連携し、支援させて頂いている。	○	重度化した場合や終末期のご入居者様に対し、私たち介護職員は出来る事が限られており「最期まで生活者」であることを支援することしか出来ませんが、ご本人様やご家族様から希望がある際には、事業所の看護師を中心に日常の健康管理に努め、医療機関と連携し支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p> <p>入居受け入れの際には、これまでに関わっていたサービス提供者やご家族様等の関係者と出来る限りの連携を図り、環境変化によるストレスを最小限に抑えるよう支援している。退去による住替えの際にも同様に、転居(院)先の関係者に、より多くの情報を提供したり、馴染みの職員が訪問する等し、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	○	今後も継続して取り組んでいきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p> <p>ご入居者様に合った言葉掛けや対応が出来るよう常時に気を配り、プライドを傷つける事の無いよう努めている。また、記録等の個人情報の取り扱いについては社内に個人情報保護法に沿ったルールがあり、それに則り扱っている。</p>	○	ご入居者様一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように、今後も取り組みを継続していきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> <p>ご入居者様が希望等を正しく表出出来るよう対応する際には、誘導的な質問とならないよう配慮するとともに、各ご入居者様が自己選択・決定し納得しながら生活しているように支援している。</p>	○	全てのご入居者様が、自己選択・決定し納得した暮らしができるように、一人ひとりの能力に応じた支援を継続していく。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> <p>当グループホームには、ご入居者様はもちろんのこと、職員にもグループホーム内の生活に関する特別なルールはなく、起床時間や食事の時間等、出来る限りご入居者様一人ひとりのペースに合わせている。ただし、健康状態等の理由により医師より特別な指示がある場合には、ご本人様やご家族様と相談の上、医師の指示を優先することもある。職員の業務の都合等により、ご入居者様の生活のペースを乱す事のないように配慮している。</p>	○	職員のチームワークにより、現在の取り組みが行えていると思います。今後もチームワークを強化し、その人らしい暮らしを支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> <p>訪問理美容を利用しているご入居者様が多いが、希望がある場合にはご本人様が希望するお店に行けるよう支援している。</p>	○	今後も継続し支援していく。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> <p>調理の下ごしらえや盛りつけをご入居者様と共に行っているが、献立を考えたり、調理の主な作業を職員が行っている。下膳に関しては、身体能力に応じた方法で下膳してもらっている。食後の後片付けの際には、ご入居者様数名で食器を拭いたり参加している。</p>	○	調理に関しては特定のご入居者様の役割になっているため、他のご入居者様にも行って頂ける事を少しずつでも見つけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒・喫煙・おやつ等の嗜好品に関しては、ご本人様やご家族様の希望を優先しつつも、医師に相談し、健康上支障のない範囲で楽しんで頂けるよう配慮している。	○	健康状態に配慮しながら、今後も継続して支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	水分・排泄チェック表を活用し、排泄のパターンの把握に努めている。出来る限りトイレで排泄出来るように支援しているが、ご入居者様によっては臥床した状態の方が排尿しやすい方もいらっしゃる為、排尿状況を確認しながら臥床して頂く等している。	○	排泄の失敗は自信喪失にも繋がってしまうため、各ご入居者様のタイミング・習慣に合わせた支援をし、今後も気持ちよく排泄して頂けるよう努めていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	21:00まで遅番者を配置し、ご入居者様の希望時間に合わせた入浴支援が出来るように努めているが、全ての希望等に対応出来ていない。	○	より多くの要望に応じられるよう、体制を整えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	各ご入居者様の生活習慣や状況に応じて、ゆっくりと安眠して頂けるよう支援している。また、安眠出来ないご入居者様がいる際には、眠れない原因の把握に努めるとともに、日中の過ごし方等を工夫し、睡眠薬等を使用しなくても気持ちよく睡眠出来るように支援している。状態に応じて医師に相談し、適切な薬の処方を受ける場合もある。	○	ご入居者様一人ひとりの状態を正確に把握し、安眠できるための支援を継続していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	各ご入居者様の生活歴や能力に配慮した役割や楽しみごとの支援に努めているが、充分に対応出来ていない。	○	再度、各ご入居者様の生活歴や能力を見直し、張り合いや喜びのある暮らしの為に支援に努めたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	各ご入居者様の能力や希望に応じ、ご本人で金銭管理をして頂いている。ご本人が管理することが出来ない方についても、外出時の支払いの際には、お財布をご本人様に渡すなど、ご自分でお金を使って頂く機会を作っている。	○	今後も現在の支援を継続していけるよう、ご入居者様の希望などに応じた支援をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の天候や体調に合わせ、散歩や買物に出掛けられるように声かけ・支援し、外出の機会が少なくならないように配慮しているが、各ご入居者様の希望に十分な対応が出来ていない。	○	夏期間の外出については現在の取り組みを継続していく。冬期間については機会が少ないため、安全な外出支援を検討し、通年の外出を楽しんで頂けるよう取り組んでいきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご入居者様の希望を取り入れながら、ドライブ等の外出の支援を行なっているが、事業所として車を確保しておらず、充分に行なえていない。遠方等、車で移動が必要な場合には、ご家族様にお願い、対応して頂いている。	○	ご入居者様のきぼうに出来る限り応えられるよう、運営者に働きかけると共に、職員やご家族様と相談し合い、外出の支援を行っていききたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご入居者様からの希望があれば外部に電話をかけられるような支援をしている。手紙についてはご入居者様からの要望がなく、要望が発生した際には一緒にポストに投函する等の支援を考えている。	○	現在の取り組みを継続していき、ご入居者様の大切な人との関係を保っていききたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご本人様の居室や、居間等の好きな場所で過ごして頂いたり、状況に応じてお茶をお出しする他は、面会等の来訪者に対し特別な工夫は行なっていない。気軽に訪問して頂けるように「明るく、元気な挨拶」のみを徹底している。	○	ご家族様には入居時に「自分の実家に遊びに来る気持ちでグループホームに来て頂きたい」旨をお伝えしており、気軽に訪問して下さっていると感じている。今後も、より多くの方が気軽に立ち寄れる雰囲気や環境を作っていききたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を行い、各職員間の認識に違いが生じないように、日常的に確認し合い身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	○	研修を重ね、身体拘束をしないケアの実践を継続していききたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ご入居者様の状態に応じ、以前には事故防止のために玄関を施錠していたが、現在は、ご入居者様の状態や行動を十分に把握した上で開錠している。	○	ご入居者様の状態に応じ、これからも鍵をかけないケアに取り組んでいくと共に、ご入居者様の所在確認や見守りを強化し、事故防止に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	所在確認表を活用し、1日4回、所在と着用している衣服をチェックしている。所在確認を定時に行う事で、ご入居者様の生活パターンや、様子を観察・把握する事が出来、事故防止に役立っている。	○	所在確認を定期的または、必要に応じて随時行っており、事故防止につとめると共に、ご入居者様の様子を見守っていく。また、所在確認や見守りがご入居者様のプライバシーや誇りを害する事のないように配慮していく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁やはさみ等の危険な物品は適切に管理しているが、ご入居者様の状態に応じ、現在は特別な場所での保管はしていない。ご入居者様から包丁やはさみを使用したい旨の希望がある際には、能力に応じて使用して頂いている。その際には、職員が付き添いや見守りを行なっている。	○	危険が伴う物品は一律になくすのではなく、安全に取り扱えるように見守り支援していく。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各ご入居者様の身体の状況や個性を把握し、共有することで個別の事故防止に努めているが、十分に学べていない。	○	各ご入居者様の身体の状況などの把握に努めると共に、事故防止のための知識を学ぶ機会を作り、事故防止に取り組んでいく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急処置や初期対応の訓練を全職員が受けているが、一度ずつのみで定期的に再訓練出来ていない。	○	応急手当や救急処置の方法を学んだり再確認するためにも、救命講習を定期的開催していく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	職員間、ご入居者様やご家族様と災害時について話し合うことはあるが、充分なものではなく、また、地域の人々への協力の働きかけが出来ていない。	○	避難訓練を定期的に行うと共に、地震などの災害に備えた対応法を話し合っていく。また、運営推進会議などを通し積極的に地域の人々の協力を求めている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時には生活の中で起こり得るリスクについて、ご家族様等に説明し、ご理解頂いている。また、ご入居者様の身体等の状態変化に応じ、その時の起こり得るリスクについても説明・相談し、対策に当たっている。	○	生活の中で起こり得るあらゆるリスクについて職員間で共有し、ご家族様へ説明していく。管理者や職員だけでなく、ご家族様などの関係者が協力し合い抑圧感のない暮らしを大切にしたいリスク対応を行ってきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	各ご入居者様の日々の様子観察はもちろんのこと、健康管理表にて毎日の健康状態をチェックし、記録することで体調の変化を早期に発見出来るように努めている。健康管理表についても各個人に合わせた使い方を取り入れている。	○	通常時の様子やバイタルサインの数値を把握し共有することで、小さな体調の変化などに気づけている。今後も日常の健康管理に努めると共に、医療関係者との連携に努めていく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師より処方を受けている内服薬は、医師の指示に従い看護職員が中心となり管理し、服薬の介助を行っている。また、薬の説明書を保管し必要時にはすぐに確認できる状態にある。薬の変更や追加時には医師や看護職員より薬の目的や用法、副作用について指導を受けているが、全職員が全ご入居者様分を正しく把握し理解できていない。	○	全職員が全ご入居者様分の内服薬について正しく理解できるよう努める。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分・排泄チェック表と健康管理表を活用し、排泄パターンの把握に努め、便秘予防に取り組んでいる。日々の食事や飲み物にも注意を払い対応している	○	ご入居者様一人ひとりの排便状況を把握し共有していくとともに、個別の便秘の原因や及ぼす影響を理解することに努め、便秘予防に取り組んでいく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	訪問歯科を利用し、歯科医師や歯科衛生士に職員も口腔ケア指導を受け、日々の口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔内の異変や摂食状態を歯科医師に報告・相談し、アドバイスを受けている。	○	歯科医師や歯科衛生士と連携し、口腔内の清潔保持に努めていく。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分・排泄チェック表と健康管理表を用いて、一日の水分摂取量や食事摂取量をチェックしている。また、一人ひとりの状態に合わせた食器や形状で食事を提供するなどの支援に努めている。	○	各ご入居者様の状態に応じた食事・水分摂取の支援を今後も継続していく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、季節ごとに応じた感染症対策の研修会を行い、感染症予防に努めている。また、肝炎に関する注意点を職員間で共有し、他者への感染を予防するための衣類等の取り扱いに関する決めごとがある。	○	季節ごとに注意が必要な感染症等の研修会を行い、感染症の知識を深め予防に取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材を安全・適切に保管するため、季節に応じて食材の納品量や納品回数を調整している。また、台所の衛生を保つために取り決めがある。	○	食材の保管や取り扱いに留意するとともに、調理場や調理器具の衛生に努め、食中毒予防に取り組んでいく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	春～秋は花壇やプランターを利用し、建物周辺が明るく親しみを感じて頂けるよう工夫し、冬季には玄関横に大きな雪だるまを作成する等している。	○	玄関周りや建物周辺を季節ごとに工夫し、親しみやすい雰囲気を作っていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間や玄関に花や植物を飾ったり、季節に応じた装飾をし快適に過ごして頂けるよう工夫を行なっているが、繁忙時等の職員の声の大きさが不適切な時がある。	○	季節感や生活感を取り入れた工夫をするるとともに、職員の声の大きさや、動きが不適切なものにならないよう留意し、ご入居者が快適に過ごせる空間づくりを行っていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間と食堂の間に仕切り等がなく一つの空間となっているが各ご入居様がそれぞれが自分の居場所を確保されたり、ご入居者様同士で過ごして頂けるように配慮している。また、周囲の人を避け、一人になりたい場合には、自室にて過ごされている。	○	ご入居者様一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるよう、限られた空間の中で工夫をしていく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室に予め準備されているものは、レースのカーテンしかなく、他の家具等は全て持ち込みとなっているため、ご入居者様の希望に沿った居室環境作りが出来るようになっている。	○	居室内には予め準備されているものがほとんどないため、どのような物を用意し、配置するか戸惑われるご家族様もおりますが、ご本人様の身体状況に配慮し、ご本人様やご家族様と相談し居室内の環境を整えている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天候や室温等に応じ、窓を開ける等し換気・空調に配慮している。気温が高く室内が暑い時にも、風でカーテンが揺れたり、直接風が当たると寒がり窓を閉めてしまうご入居者様もおりますが、そういった方にも納得して頂けるような説明や対応を工夫しながら換気や室温調節を行っている。	○	今後も納得して頂ける説明や対応に工夫し、適切な室温等の調節を行っていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部はバリアフリーとなっており、安全に配慮している。居室前廊下には手すりが設置されていないが、ご入居者様の転倒事故の予防のためであり、職員が各ご入居者様の所在や動向を見守り、必要に応じて歩行介助を行なうことにより未然に転倒事故を防げている。	○	ご入居者様一人ひとりが安全かつ自立した生活ができるように、状況に応じた支援を行っていく。現在は居室前廊下には手すりが設置されていないが、必要時には設置できる作りになっている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室やトイレ等に表札を付けたり、各ご入居者様の能力に応じ、表札の文字の大きさを調整し、場所間違え等の失敗や混乱を防ぐ工夫を行なっている。	○	一人ひとりの力に応じた工夫をし、力に応じた自立生活が送れるような支援を継続していく。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏季にはプランターの野菜や花を眺めたり、駐車場を利用してバーベキューを楽しんで頂いているが、グループホーム前は時間帯により交通量が多い道路であり、ベランダ等がなく、自由に外での活動が出来る空間が少ない。	○	自由に外での活動が出来る空間は少ないが、安全に楽しく活動して頂けるよう限られた空間を工夫し有効に活用していきたい。



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<del>①ほぼ全ての利用者</del> ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<del>①ほぼ全ての利用者</del> ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<del>①ほぼ全ての利用者</del> ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい <del>③利用者の1/3くらい</del> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 <del>②利用者の2/3くらい</del> <del>③利用者の1/3くらい</del> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 <del>②利用者の2/3くらい</del> ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<del>①ほぼ全ての家族</del> ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 <del>③たまに</del> ④ほとんどない

97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

・何か特別なことに力を入れていることは無く、職員が「介護者」ではなく、ご入居者様と共に暮らす存在であり、職員とご入居者様が支え合い日々を過ごしております。生活者として「当たり前の生活を当たり前を送る」ことを職員がさり気なく支援しており、本当の家族ではありませんが、3世代の大家族のように過ごしております。職員はご入居者様から生活の知恵をたくさん学んでおり、ご入居者様は職員に教えることで自信を取り戻し、生きがいとされております。おじいちゃん・おばあちゃん、娘時々嫁、孫達が毎日楽しく生活しております。

・終末期のケアの取り組みを行っております。平成19年度に1名の事例があり、主治医(往診医療機関)の協力と指示のもとに看護職員が中心となり医療面のケアを行ない、介護職員は「最期まで生活者でいたい」という思いのご入居者様の生活を支援させて頂きました。他のご入居者様がお部屋にお見舞いに行き、励ましの言葉を掛けたり、職員と共に看病したりと、こういった場面でも互いが支え合う姿がありました。この取り組みを知るご家族様からは、「これからも、こういったことを続けて欲しい」等の要望があり、今後も可能な限り行なっていきたいと思っております。